

第 36 回生物学技術研究会 参加報告

共通機器部門 山口信雄

1. はじめに（目的等）

生物学技術研究会は、大学及び研究機関等の生物学の研究分野に携わる技術職員が日常関わっている実験、機器操作及び施設管理などの幅広い技術活動での成果や問題点を発表し、討論することにより技術の向上と交流を図ることを目的としている。

2. 期間・場所

期間：令和7年2月20～21日

場所：岡崎コンファレンスセンター（愛知県岡崎市）

3. 参加者等

約210名程度（オンサイト約130名程度、オンライン約80名）

4. 研修内容

1日目・研修講演「トランスレーション・リサーチにおける実験モデルウサギ」

動物資源共同利用研究センター センター長 西島 和俊 教授

・ポスター発表 35件

2日目・口頭発表 10件

・奨励研究採択課題技術シンポジウム 5件

・施設見学

5. まとめと感想

久しぶりにポスター発表（質量分析装置メンテナンス、ユーザーへの対応）を行い、関連業務を行っている技術職員と実用的な意見交換を行うことができた。毎回参加するたびに「こういうのもあるのか」と感嘆させられるとともに、他者の発表に関しても、ポスター、口頭発表、Slackを通じてこれまでの経験を元にした還元ができたかに思う。

今回特に印象に残った内容は、光学顕微鏡の補正環の役割を例とともに再認識し、厚めのサンプルに対してなど、状況に応じてどのようにうまく使うべきかという口頭発表で、非常にわかりやすく、実際に光学顕微鏡を利用していたり、学生実習補助をしている技術者にとっては必見の発表であったと思う。先進性・新規性であったり学術性を謳うのではなく、基礎を正しく修めて支援・貢献する技術職員の鑑というべき発表が行われるのは、本研究会ならではの改め感嘆させられた。